

平成24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	秦野 稔子
作成日	平成 25 年 2 月 22日

1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、最後までよく考え、意欲的に生きる子どもの育成 おもいやりのある子 かんがえる子 さきに行動する子 きたえる子 (豊かな心) (考える力) (実践する力) (強いからだ)
--

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 児童・教職員・保護者が教育目標を意識し具現化のための取り組みをする。 保護者や地域との信頼関係を深め、地域の関係団体とも連携を図り、児童の健全育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育を柱に、教育活動全体で「豊かな心をもち、よりよく生きようとする子ども」を育成する。 道徳の時間の指導の充実を図り、研究発表会を行う。 心を豊かにする体験活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」「楽しい授業」を目指し、児童一人一人を大切に授業を行う。 「書く力」について研修し、思考力・表現力を伸ばす。 授業や「学習タイム」で基礎基本の確実な定着を図る。
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 児童と教職員が意識して教育目標の具現化に取り組む。(挨拶・縦割り掃除等) 学校からの広報誌や学校行事の参観等で学校の教育目標や教育活動を保護者や地域へ広く知らせる。 児童の様子について、保護者から相談しやすい関係を作り、連絡を密にして、家庭と連携して児童の育成をする。 地域の関係団体とも連携を図り、児童の安全な環境(通学路や災害時を含む)をつくるために取り組む。 児童の学年や発達段階に応じ、地域の方々との交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間と教科・特別活動・総合的な学習の時間と連携した総合単元を組み、教育活動全体で道徳教育を意図的に行う。 道徳の時間の話し合い活動・発問の工夫・授業展開(特に自己の生き方について考えを深めることの視点を持つ)等の研究を行い、その充実を図る。 一人一研究授業ではクラスの子どもの実態を見つめ、つけるべき力を考えて総合単元を組み、資料を選んで発問を考え、子どもを鍛えて授業を行う。 心を豊かにする体験活動(縦割り活動・加太合宿・交流活動・元気な森の子・社会見学等)の内容の精選を行い、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領2年目の今年度、教材研究をさらに深めて、充実した授業を行う。 思考力・表現力を向上させ活用力をつけるため、考えを書く力や人前で話す力を伸ばすことを大切に授業づくりを行う。 支援員(市特別支援教育支援員・和歌山大学生)を活用し、基礎的な知識・基本的な考え方の定着を図る。 「学習タイム」の内容を充実させ、計算ドリルや漢字学習、読み聞かせ、読書の時間として、国語力・算数力をつける。 一人一人に学力をつけ、自己肯定感を育む。
(取組) 評価の結果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 「おかざき」の教育目標を学校便りや講話で意識的に知らせた。 学校便りだけでなく、学校のホームページを頻りに更新することで、学校の教育目標や活動内容、児童の様子を保護者だけでなく広く地域にも知らせた。 児童のトラブルやけが等には迅速に、協力して対応することに努めた。また、保護者から相談しやすい関係を作るため、いろいろな機会に呼びかけたので、2学期以降相談が増えた。 前年に比べアンケートの「子どもが相談しやすい学校」と「学校は教育活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」の項目が数ポイント高くなった。 地域の関係機関と連携して児童の学年や発達段階に応じ、地域の方々との交流を行うことにより児童にとってよい体験ができた。 本年度に起こった事件対応の反省より、警報や事故等で保護者にメール配信を行うことで安全の確保だけでなく、安心できるように配慮するようにした。 通学路等の危険箇所や災害避難等については、地域の関係機関と連携して、児童の安全な環境をつくるために対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会の道徳教育の研究指定を受け、研究を行った。 児童の実態を把握し、総合単元を組み、教育活動全体で道徳の力を育む工夫をした。 研究の核である「道徳の時間」について、畿央大学島教授には発達段階に合わせた目標の持ち方について指導を受け、道徳の時間の発問、自己の生き方の考えを深める活動等を工夫して、授業の充実を図った。 教科等別研修会で低・中・高学年の3研究授業を行い、良い評価を受けることができた。 いじめを早期発見・早期対応するため、2学期以降、毎月のアンケートで児童の生活や心の変化をつかむとともに、ほめる、しかるなど、児童への言葉がけを積極的に行った。 縦割り掃除等で教師が積極的に言葉をかけたり、ほめたりすることにより、高学年の意識を持って活動に意欲的に取り組めるようになった。 森林体験やときわ会との交流会、和太鼓演奏会、県警音楽隊演奏会、団七踊りの学習会、社会見学など、心を豊かにする体験活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の充実のため、引き続き教材研究を深め、授業に取り組んだ。 市特別支援教育支援員が支援の必要な学級に入り、生活や学習で児童の支援を行った。 和歌山大学生ボランティア2人を迎え、基礎的な知識・基本的な考え方の定着を図るため、週12時間児童にタイムリーに支援した(4～6年生)。 授業中の学習はもちろん、帰りの会の前に「学習タイム」でも計算や漢字、作文や視写、読書等に学年やクラスで取り組んだ。 全国学力・学習状況調査では、どの教科も基礎的な知識・基本的な考え方は概ね達成できていた。国語の表現力・活用力を問う問題には課題があった。 書く力をつけるため、学期初めの会議で書かせ方の実践を持ち寄った。「書きたいことがある」「書き方が分かる」「積み重ねが大切」をキーワードに授業で書く機会を増やした。
改善方法【A】に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の学校便りだけでなく、今後もホームページも更新することで保護者だけでなく地域へも広く学校の活動や子どもの様子を知らせる。 学校が地域の方々との連携をより深め、児童が地域の方々と交流する行事を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き和歌山市教育委員会の研究指定を受け、道徳教育の研究に取り組み、道徳の授業を充実させる。 いじめのない学校作りをするために、仲間意識を高める取組を増やすとともに、道徳でも人権や仲間意識を高める教材を増やして授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究をさらに深めて充実した授業を行うとともに、支援員を活用して児童の学力向上を図る。 思考力や表現力・基礎的な知識の活用力を向上させるため、書く活動についてさらに研修を深めるとともに、考えを書く力や人前で話す力を伸ばす。

3 その他の課題

児童の命を守り、安全・安心のある生活を送れるようにするために <ul style="list-style-type: none"> 不審者等に対して俊敏に行動できない1年生の教室を2階にする。 火事・地震や津波・不審者に対する避難訓練を充実させる。 地震や津波についての学習と避難訓練を連携させて充実を図る。
